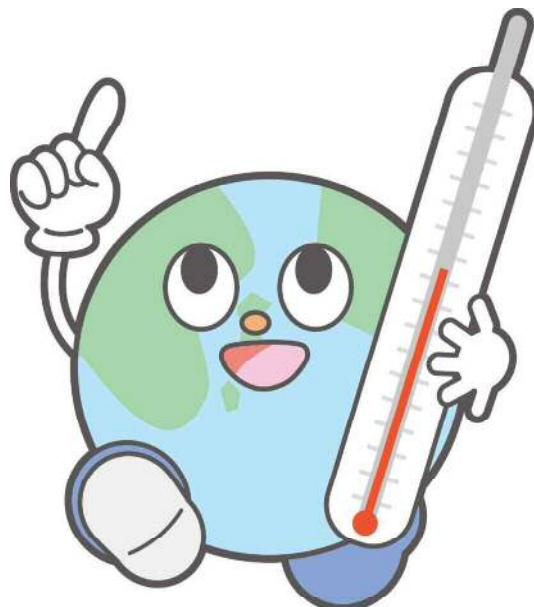


平成27年（2015年）度 関西エコオフィス大賞

～受賞事業所の取組紹介～



地球クン

地域のチカラを結集し、個性とパワーあふれる関西へ！

関西広域連合

Union of Kansai Governments

構成団体：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市

平成27年度関西エコオフィス大賞 受賞事業所

○関西エコオフィス大賞

新関西国際空港株式会社 関西国際空港 [大阪府・泉佐野市]

様々な施設から構成され、管理する部署も複数にわたる大規模な施設において、省エネルギー委員会を設置し、施設全体の省エネの推進に取り組んでいる。また、設備機器の導入後もエネルギー使用状況の見える化や設備稼働の適正化分析を行い、一層の省エネ推進に取り組まれていることが高く評価された。

○関西エコオフィス奨励賞

医療法人杏和会 阪南病院 [大阪府・堺市]

毎月のポスター作成による節電啓発や管理職会議での節電呼びかけなど、事業所内で継続して取組の周知徹底を図っていることは評価が高い。また病院での環境取組として、他の病院への波及効果が期待できる。

上島珈琲貿易株式会社 [大阪府・堺市]

小さな取組でもルールを徹底することで社内へ活動が浸透し、電力使用量削減を実現している。その他、太陽光発電の導入や自転車を併用した営業で自動車利用の抑制等、事業所挙げての取組となっている。他事業所でも取組可能な活動も多く波及効果も期待できる。

有限会社日置川清掃 [和歌山県・白浜町]

事業所活動全般にわたっての取組に加えて、貯水タンクによる雨水利用で施設内の水利用をほぼ賄っている。環境活動の成果をグラフ化して社内に掲示し「見える化」を行い、従業員の意識向上を図っている。

AINZ株式会社 本社・工場 [滋賀県・竜王町]

広大な敷地を活かして、地元の団体との連携による交流活動を通じた環境保全活動のほか、エコカレンダーの販売では環境メッセージの発信による啓発効果や、購入による緑化への貢献という他事業所への波及効果もあるユニークな取組である。

直営オフィス名	新関西国際空港株式会社 関西国際空港	
ホームページURL	http://www.nkiac.co.jp/	
オフィスの概要	所在地	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 新関西国際空港ビル
	業種・業務内容	空港運営事業、関西国際空港及び大阪国際空港の設置・管理
	従業員	457名
主な取組項目	照明のLED化の推進や空調効率の向上等、様々な施設における省エネを推進し、エネルギー使用量の大幅な削減を実現。	

(取組の開始年・継続期間)

取り組みの開始年は2012年7月、継続期間は3年6か月

(取組を始めた契機・経緯)

世界最高水準の「環境先進空港」の実現を目指すため、取り組みの基本理念の一つに「エコオペレーション（見える化・省エネ）」を掲げ、利用者の快適性や利便性を損なうことなく、空港全体のエネルギー効率を高め、エネルギー使用量の削減に向けた取り組みを推進している。

(取組の具体的な内容)

■ 照明のLED化を推進

①第1ターミナルビル等の主要な照明をLED化 【2014年度～2015年度】

照明の更新に伴い、HID灯、蛍光灯等10W～1000Wの照明をLED化

【2014年度】第1旅客ターミナル 6,280台 (450kW減・約53%の省エネ)

【2015年度】立体駐車場・空港駅等 2,551台 (220kW減・約65%の省エネ)

②第2、第3ターミナル整備等に伴う航空照明をLED化 【2012～2015年度】

【2012年度】第2ターミナル整備 203台 (誘導路中心線灯、誘導炉灯にLED導入)

【2013年度】2期貨物整備 75台 (上記に加え、誘導案内灯にLED導入)

【2015年度】第3ターミナル整備 664台 (上記に加え、高速離脱用誘導路中心線灯にLED導入)

従来のハロゲン灯器に比べ、約68～92%の省エネ

■ 空港の様々な施設における省エネを推進

①第2ターミナルビル搭乗待合エリアにおける空調効率向上 【2014年度】

シーリングファン導入による暖房効率向上 (約28%の省エネ)

窓ガラスの遮熱フィルム施工 (171m²) による空調負荷軽減

②航空機給油施設における燃料払出ポンプ用インバータの高効率化 【2013年度】

航空機燃料の燃料払出ポンプ (700kVA、3台) の更新に伴い高効率インバータを導入
効率は91%→97%に向上

③旅客手荷物処理システムにおける搬送動力の高効率化 【2015年度～】

コンベア駆動用電動機の交換 (21台) に伴い高効率モータを導入 (約7%の省エネ)

手荷物搬送用ベルトの抵抗を低減した省エネベルト (約38%の省エネ) の検証実施

④排水処理施設（厨房除害施設）における排気の最適化 【2015年度】

排気ファンをインバータ制御とし排水（臭気）が少ない時間帯は風量を低減

15kWファン1台をインバータ化 (約33%の省エネ)

⑤空調整備における省エネファンベルトの導入 【2014年度】

ファン駆動用ベルトをVベルトから平ベルトの省エネタイプに変更し、伝導効率を向上
22～37kWファン8台に導入（約3%の省エネ）

⑥給水ポンプ設備における容量最適化と高効率化 【2014年度～】

給水ポンプの更新に合わせ必要能力を再検討し容量を低減。電動機も高効率タイプを導入
第1旅客ターミナルビルの更新では、37kW（8台）→22kW（8台）（約40%の省エネ）
今後、各施設の給水ポンプも同様に検討し順次更新予定

(取組において創意工夫した点)

- ・空港は様々な施設で構成されており、管理する部署も複数にわたることから、省エネルギー委員会の配下組織として各施設を担当する部署で構成する作業部会を設置し、担当施設における省エネを推進している。
- ・第1旅客ターミナルビルの照明LED化においては、LED化による省エネだけでなく、ターミナルビルのデザインコンセプトを考慮した器具選定や照度改善も図っている。
- ・設備更新においては、高効率機器の導入だけでなく、容量等選定も再検討し適正化している。
- ・省エネパトロールの実施により、設備状態の適正チェックや省エネのヒントを得て、対策の検討、関係部署との調整を図り、省エネを推進している。

(効 果)

○LED化の推進による大幅なエネルギー削減

- ・第1旅客ターミナルビル 6,280台（年間260万kWhを削減）
 - ・立体駐車場・空港駅他 2,551台（年間 90万kWhを削減）
 - ・航空照明 942台（年間 13万kWhを削減）
- 上記のLED化により原油換算で933kL（施設全体のエネルギー使用量2.3%相当）を削減

○空港の様々な施設における省エネ施策により、施設全体のエネルギー使用量を1%以上削減

2014年度のエネルギー使用量は、前年度比98.3%（▲1.7%）
原油換算としては679kLの削減

(従業員への周知・啓発の方法)

- ・省エネルギー委員会の情報を社内ホームページに掲載し、周知・情報共有している。
- ・社内の改善運動（スマートアイデア活動、コスト削減活動等）による無駄をなくす改善意識を高め、社員一人ひとりができる節電（間引き消灯、細目な消灯、パソコンディスプレイの未使用時の消灯等）の提案・実施も行い、社内情報共有により水平展開している。
- ・スマート愛ランド推進協議会を通じて、空港内事業者様へ省エネ・節電の協力依頼を行っている。

(その他アピールしたい点)

- ・2015年度にBEMS（ビルエネルギー管理システム）を導入し、エネルギー使用状況の見える化や施設稼働の適正化分析などに取り組み、より一層の省エネを推進する。

その他の環境に配慮した事業活動への取組

○適正冷暖房温度の設定・夏冬エコスタイル

- ・社内事務室の適正冷暖房の設定（冷房時28°C、暖房時20°C）
- ・夏のクールビズ、冬のウォームビスの奨励

○節電の励行

- ・社内事務室や廊下の節電の徹底
間引き消灯、勤務時間外、昼休みの消灯
従業員エレベータの1台停止など

取組の写真・図等

LED化の推進



関西国際空港（KIX）の様々な施設における省エネを推進



直営オフィス名	医療法人杏和会 阪南病院	
ホームページURL	http://www.hannan.or.jp	
オフィスの概要	所在地	大阪府堺市中区八田南之町277番地
	業種・業務内容	病院
	従業員	670名
主な取組項目	毎月、ライトダウンの呼びかけのポスターを作成して全部署に配布し、節電啓発を通年で実施。	

(取組の開始年・継続期間)

2011年6月～現在まで継続。
 毎月ライトダウンポスターを全部署へ配布し、節電への啓発活動を実施して働きかけをしている。現在は節電機器も稼働し、院内全体で節電へ取り組んでいる。
 環境省のライトダウンキャンペーンにも参画。また、当院のコンセプトワードは「光・風・緑」で療養環境の整備のために、院庭は花と緑に溢れている。

(取組を始めた契機・経緯)

花や緑に包まれた環境づくりをもとに、2010年エコオフィスに登録。2011年に起こった東日本大震災の影響もあり、関西でも停電が計画的に実施されるなどの話もあり、病院という電気使用量の多い施設で節電に向けた取り組みを行なおうとしたのがきっかけである。

(取組の具体的な内容)

ライトダウンポスターを毎月配布。ライトダウン（電気offやPCのこまめな電源off、エアコン温度夏は26°C、冬は22°C：古い建物もあり、28°C、19°Cにはできない）に努めるとともに、ライトダウンデイはNo残業デイとし、早く帰ってもらうよう働きかけをしている。

(取組において創意工夫した点)

毎月、図柄の違うA3ポスターをラミネートし全職場へ配布している。

(効果)

平成27年度は4月から10月までの半期の電気使用量が前年を超えたのが5月、7月の2か月のみ。電気料金は半期で前年比6.9%Downと成果を出している。

(他事業所への普及の可能性)

他病院からの見学などで利用するホール周辺壁にも掲示されているため、来客へ当院の取組みを知っていただく機会となる。

(従業員への周知・啓発の方法)

ポスターを毎月。電気使用量等は月に1度の管理職者会議でも報告。更なる節電への協力を呼びかけている。

(その他アピールしたい点)

節水に関しては、食堂以外を井戸水を利用しておおり、市水の利用は少ない。
院庭は、1万本の花木と8000株の花や緑を植えている。
6月～9月は特にサマーキャンペーンとし、エコスタイルの実施など行っている。

その他の環境に配慮した事業活動への取組

○適正冷暖房温度の設定・夏冬エコスタイル

- ・エアコン温度夏は26°C、冬は22°C設定としている。 夏は6月～9月エコスタイルを奨励している。

○節水の励行

- ・水は井戸水を利用

○省エネ・新エネ設備機器の導入

- ・節電機器を設置している。

○グリーン購入の推進、緑化の推進

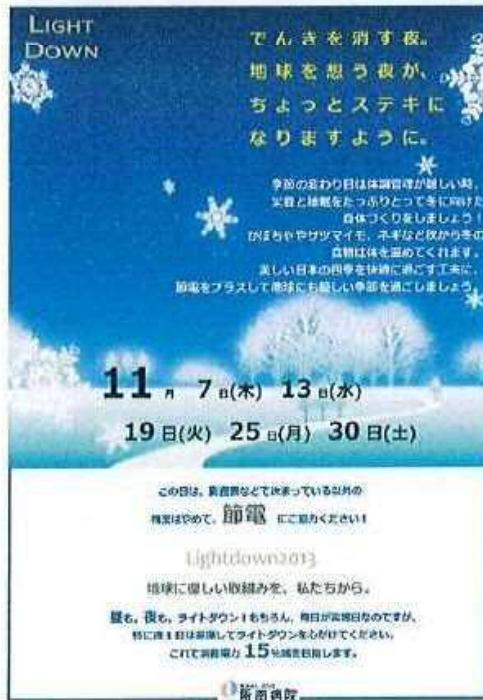
- ・グリーン購入、植替えなど定期的に実施している。植替えは年2回

○その他

- ・ダイオキシンの出ない、焼却炉を院内に持っている。

取組の写真・図等

ライトダウンポスター (2015.10 2014.5 2013.11 2012.2)



直営オフィス名	上島珈琲貿易株式会社	
ホームページURL	http://www.muc-coffee.co.jp	
オフィスの概要	所在地	大阪府堺市美原区太井122-1
	業種・業務内容	コーヒー豆の焙煎および卸売、カフェ向け業務用商材卸
	従業員	43名
主な取組項目	朝礼での告知や消灯などのルール表示の徹底による省エネ取組や、代表者が率先してエコ活動に取り組む等、社内に活動が浸透。	

(取組の開始年・継続期間)

平成22年から5年（現在6年目）

(取組を始めた契機・経緯)

弊社の販売の中心であるコーヒーは、ほぼ海外に生産を頼っています。地球温暖化によると考えられる異常気象や病害虫の発生によって、生産者が被害を受けたり、仕入れたいコーヒービーンが手に入らない状況を目の当たりにした事が活動を始めた契機の一つです。

また、3S（整理・整頓・清掃）活動を実施する中で、無駄な光熱費を削減する活動を以前から行っていた事もエコ活動を始める契機となりました。

(取組の具体的な内容)

- ・朝礼前、全員清掃後の消灯アナウンスの放送
- ・出荷センターのガラス窓に断熱材の貼付
- ・電力を季節別にデマンドコントロールしている。
- ・不必要的照明の消灯
- ・使用していない部屋の空調の停止
- ・エアコン室外機への寒冷紗取り付け
- ・クールビズ、ウォームビズによる冷暖房使用抑制
- ・空調機フィルターの定期的清掃・交換等の適正管理
- ・離席時にパソコンをスタンバイ状態にする
- ・電灯のLED化

(取組において創意工夫した点)

ルールを徹底する仕組みづくりがもっとも工夫した部分です。

エコ活動を始める事で沢山のルールが生まれましたので、ルールの把握自体が難しい状況が生まれておりましたし、そもそもエコ活動を行わなくても会社の運営に大きな影響が無いので、社員のエコ活動への意欲は正直なところ高くありませんでした。

そこで朝礼で何度も案内したり、表示を徹底したり、代表が率先垂範してエコ活動に取り組んだりすることで徐々に社内に活動が浸透していきました。

(効果)

◎本社電力使用量の年次変化

2011年	184,965 kwh	基準年
2012年	157,740 kwh	基準年対比 85.3%
2013年	138,135 kwh	基準年対比 74.7%
2014年	135,460 kwh	基準年対比 73.2%
2015年	120,813 kwh	基準年対比 65.3%

(他事業所への普及の可能性)

全ての活動を他事業所で実行できるわけでは無いですが、負担の小さな活動が比較的多いという点で普及の可能性が高いと言えるのではないかと考えております。

(従業員への周知・啓発の方法)

- ・代表者自らが率先垂範（会社全体で推進している事を従業員が認識する）
- ・朝礼を利用して代表者がルールの中から1つ選んだものを1週間徹底するよう告知するとともに事務所にルールを掲示。全員が徹底できるまで続ける。
- ・消灯や電源OFF、離席時のPCスリープなど、ルール表示POPを徹底的に貼りだす。

(その他アピールしたい点)

節電と同じ電力関係という点でアピールしたいのが、自社屋上にソーラーパネルを設置し発電を行っていることです。

私たちは「コーヒー生産国での異常気象やその影響による病害虫の発生を何とか回避したい！」という思いで活動しています。

弊社1社にできる事は非常に小さな事ですが、同様の活動を推進する同志がもっと増えていけば、大きな力になると信じています。

【その他の環境に配慮した事業活動への取組】

○エコドライブの励行、自動車利用の抑制

- ・エコドライブ実車講習の受講
- ・自転車による営業活動の実施（パーク＆ライド）
- ・エコドライブ等運転方法の励行
- ・タイヤの空気圧の定期的確認と適正值保持
- ・排気ガス・騒音のレベルを抑えるため適正な車両整備
- ・エコドライブ20箇条の音読

○節水の励行

- ・焙煎機付属のチャフ散水に使用する水の循環
- ・日常的な節水励行
- ・節水コマの設置

○ごみの再資源化

- ・チャフ（＝コーヒー生豆に付着している薄皮）、珈琲抽出カスの堆肥化（リサイクル業者へ依頼）
- ・紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック等の分別の徹底
- ・珈琲マシン等の機器類は自社修理・清掃して再利用

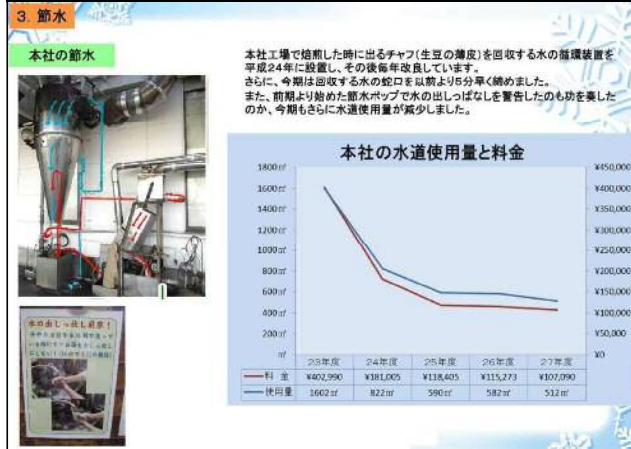
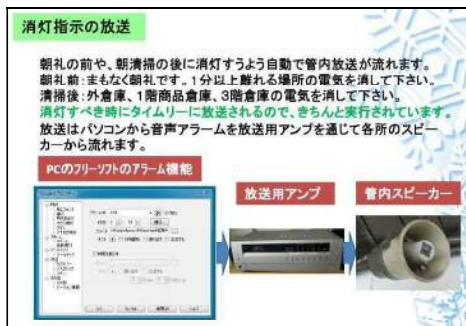
○グリーン購入の推進

- ・パソコン・プリンタは原則として中古パソコンを購入
- ・サスティナブル珈琲（＝環境に配慮した生産を継続し続けている農園産のコーヒー。有機珈琲もその一つ。）の買付・販売増

○省エネ・新エネ設備機器等の導入

- ・太陽光発電の導入

取組の写真・図等



直営オフィス名	有限会社日置川清掃	
ホームページURL	http://www.seisou-hikigawa.com/	
オフィスの概要	所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町大古 537-126
	業種・業務内容	一般廃棄物の積替え保管を含む収集運搬及び中間処理 産業廃棄物の一部積替え保管を含む収集運搬及び中間処理 再資源化品の製造販売
	従業員	27名
主な取組項目	エコアクション21の活動に取り組み、照明のLED化や太陽光パネルの設置、水の完全エコ（使用する水は飲み水を除いて100%雨水・湧水利用）、環境活動の「見える化」等の取組。	

(取組の開始年・継続期間)

2005年度に実績の把握を行い、正式に翌年からエコアクション21の活動に取り組みはじめ、2007年4月に認証・登録されました。

今日まで毎年審査を受け、取り組みから8年となりました。

(取組を始めた契機・経緯)

和歌山県産業廃棄物協会より、エコアクション21取得を勧められたことがきっかけです。

当時様々なエコアクション関連講習会に参加して、取組方法や取得のメリットについて学び、それから取得に向けて活動し始めました。

(取組の具体的な内容)

二酸化炭素排出量削減、使用電力の原単位向上、収集運搬車の燃費向上、重機燃料の燃費向上、営業車燃料の燃費向上、一般廃棄物の削減、受託廃棄物再利用率向上、木材再生品・廃プラ再生品の販売促進、水使用量削減、グリーン購入推進。

これらの取組を数値により管理し、基準年（目標値）の設定を行い目標達成状況を把握しています。毎年「環境活動レポート」を作成し、社外に公表しています。

(取組において創意工夫した点)

事務所内照明のLED化・太陽光パネルの設置等のハード面の変更、水の完全エコ（使用する水は、飲み水を除いて100%雨水・湧水利用）、省エネ関連の手順書を作成・隨時改定による意識の向上、環境活動計画の進歩状況（電量使用量の実績など）を知らせる社内グラフを掲示（見える化）。

(効果)

当社では使用する業務用水を、タンクに雨水・湧水を貯め利用しています。貯水タンクによる雨水利用は、平成14年ごろから続いているので、10年以上取り組んでいます。施設内での洗濯、トイレ等の水を貯めており、水道料金0円・水資源の100%保護を実現しています。

(他事業所への普及の可能性)

エコアクション21そのものが、主に中小企業を対象としたシステムなので、ISOに比べると圧倒的に費用の面で取り組みやすくなっています。また、審査の方がアドバイザーとなり、積極的に指導してくださるので、安心して取り組むことができます。

また、当社が導入している貯水タンクによる雨水利用は、業務で多く水を利用する事業所様には特に導入をお勧めします（タイヤの汚れ落としや飛散防止の打ち水等）。太陽光パネル設置等の導入に比べ、

費用を抑えられるところもポイントです。

(従業員への周知・啓発の方法)

取組内容の実績（使用電力・使用燃料の推移グラフ）を、事務所等に掲示し、なおかつ月に一度行われる会議で、目標達成状況の確認と発表をしています。

お客様にも閲覧していただけるよう、エコアクション 21 環境レポートの最新版を、事務所等に置いて社外にも公表しています。

その他の環境に配慮した事業活動への取組

○適正冷暖房温度の設定・夏冬エコスタイル

- ・冷房 28°C、暖房 20°C活動

○節電の励行

- ・使用時以外の消灯の徹底、ＬＥＤ照明の導入

○節水の励行

- ・雨水・湧水利用

○グリーン購入の推進

- ・購入前に本当に必要かよく考える、環境レベル表示製品の優先的購入

○エコドライブの励行

- ・アイドリングストップ、急発進・急加速の防止、日常点検

○ごみの再資源化

- ・両面コピーの推進、紙パック回収運動

取組の写真・図等



雨水貯水タンク



太陽光パネル



事務所照明のLED化



使用電力・燃料の「見える化」



設定温度表示シール



紙パック回収運動

直営オフィス名	AINZ株式会社 本社・工場	
ホームページURL	http://www.shiga-web.or.jp/eins/	
オフィスの概要	所在地	滋賀県蒲生郡竜王町鏡 2291-3
	業種・業務内容	印刷関連及び情報処理
	従業員	236名
主な取組項目	地元の緑の少年団との交流による環境保全活動での敷地内緑化や、緑の募金付きエコカレンダーの企画・販売による環境メッセージの発信と緑の募金の拠出による緑化の推進。	

(取組の開始年・継続期間)

- ・「みんなで始めよう森づくり活動」 2010年より活動開始。今年度で6年目となります。
- ・「緑の募金付き名入れエコカレンダー」 2008年より企画販売。今年度で8年目となります。

(取組を始めた契機・経緯)

○「みんなで始めよう森づくり活動」

当社の本社工場は鏡山の麓に広がり、敷地面積は約6万5,000平方メートルもあります。緑豊かなこの自然環境を維持するため、社員が中心になって、2010年「鏡の森 グリン俱楽部」という組織で活動を始めました。当初は、中部森林整備事務所のスタッフの指導を受けながら、下草刈りや枯れ木の伐採を行っていました。地域にも貢献できる活動へと広げるため、竜王町役場・産業振興課様より、「竜王町緑の少年団」を紹介いただきました。その地元の小学生とその団長の所属するボランティアグループとの交流活動として、里山散策や自然観察などを実施して、今年で4年目となります。

○「緑の募金付き名入れエコカレンダー」

近年、環境への取り組みは企業が存続するために必要不可欠な条件のひとつとなってきています。そして、エココンシューマー（環境に关心が高く、エコ商品を進んで購入する人々）が年々増えている中で、より確実な環境への活動が必要とされてきています。また、企業はコーポリレーテッド・マーケティングに基づいた「大義ある商品開発」によって、消費者に社会貢献を提案する場面が増え、消費者も支援する傾向が高まっています。

そこで当社では、「卓上カレンダー」という年間を通して利用できる商品で国土緑化推進機構とコラボレーションを行い、「緑の募金」十名入れエコカレンダーを企画致しました。

お客様よりご購入をいただきました金額の5%と当社からも同額の5%の合計10%をマッチング募金致します。

社会貢献活動の一環として、共同募金という形で緑豊かな自然を後世に残せねばと願っています。

(取組の具体的な内容)

○「みんなで始めよう森づくり活動」

「鏡の森グリン俱楽部」は、四季折々に小鳥の囀りや昆虫の羽音を楽しめ、夜空に満天の星を仰ぐことが出来る環境を維持することが目的です。自主的な俱楽部活動により、また自分達の身近な場所から取り組むことにより、環境意識が高まると考えます。緑豊かな森林を守り、その機能を健全な状態で次の世代に引き継いでいくため、地域の少年・少女との交流を図ります。

■緑の少年団と交流（2015年）

10月4日（日） 里山散策、製紙会社工場案内（DVD）、紙漉きによるオリジナル品作製
12月5日（土） 里山散策（樹木プレート設置）、クラフトワーク、水に溶ける紙の紹介・実験

■環境保全活動（里山林保全）

2015年度として、7月～12月、1月末まで活動（下草刈り、枯れ松及び朽木の伐採等）

（土・日曜日及び就業後を利用した自主的な活動）

○「緑の募金付き名入れエコカレンダー」

■エコカレンダーによる環境メッセージの発信（1月～12月）

「1月 木材も 地産地消で 森育つ」

地域の木材を地域で使うことは、地域の森や山を守り、森林・林業を活性化することになり、木材の輸送距離が短くなることで、その分輸送にかかる二酸化炭素（CO₂）の排出を減らすことにもつながります。

1月から12月の毎月、EINS環境キャラクター「エコくまグリン」が、メッセージを伝えています。

■緑の募金（マッチング募金）の拠出

カレンダーの収益金の一部は「緑の募金」として、国内外の森林づくりに活用され、地球温暖化防止に役立てられています。

2015年実績 募金額 241,768円 42件（団体・企業） 8,533部

(取組において創意工夫した点)

○「みんなで始めよう森づくり活動」

「緑の少年団と交流」については、「緑・グリーン」というキーワードの中で、「環境活動」+「興味関心」+「サプライズ」、そして少年少女たちと私たちが同時に取り組むことができるワークショップを組み立てることです。

里山散策では、自生する樹木の特徴と樹木名を合わせたチャーチャーを実施し、その後に樹木パネルを設置しました。牛乳パックのリサイクルや印刷用紙の端紙を再パルプ化することにより、「紙漉き」の工程の中で、紙の再利用を実体験することができます。また、毎回のワークショップでは、指導いただいたスタッフの自然環境、特に草木や野鳥に関する情報量に驚かされ、子供たち以上に好奇心を持って説明に耳を傾けています。森づくり活動により、私たちも感動を得ることも少なくありません。

○「緑の募金付き名入れエコカレンダー」

緑の募金付き「エコカレンダー」の募金額は販売部数とともに増減します。次項の【効果項目】として、その数値を明記させていただきました。森林づくりに活用され、地球温暖化防止に役立てられます。しかし、募金額は結果を表す1面でしかありません。

この「エコカレンダー」の本来の企画意図は、環境意識の向上と環境活動への取組み促進を目的とした卓上カレンダーです。年間を通して、常に身近に置いていただき、環境メッセージを受け取っていただくことが重要なポイントとなります。子供から大人まで幅広く、親しみを持って活用していただけるように、今年度は以下の内容に注力してリニューアルしました。

メッセージ／「エコくまグリン」により、1月から12月に渡り、川柳をまじえた環境マメ知識を紹介
デザイン／ユニバーサルデザインの採用（書体及び色使い）。また使用用途に応じたリバーシブル仕様
用紙選定／適切に管理された森林の木材を利用した「FSC森林認証紙」を採用（裏面：ラベル掲示）
環境配慮／リングには植物由来の生分解性プラスチックを使用

地産地消／滋賀県地産地消型のカーボンオフセット採用（製紙工程から製造・廃棄・リサイクルまで）

(効 果)

○「みんなで始めよう森づくり活動」

2010年3月	鏡の森 グリン俱楽部を発足
2010年5月	「みんなで始めよう森づくり活動」公募事業の補助を受けて活動開始
2011年1月	松くい虫防除活動（シルバー人材センタースタッフへの実技講習）
2012年9月	「竜王町緑の少年団」との交流活動
2013年9月・10月	「竜王町緑の少年団」との交流活動を実施（2回）
2014年9月・10月	「竜王町緑の少年団」との交流活動を実施（2回）
2014年11月	竜王町清流会・河川環境美化作戦に参加
2015年10月・12月	「竜王町緑の少年団」との交流活動を実施（2回）
2015年5月・12月	竜王町清流会・河川環境美化作戦に参加

2010年より「鏡の森 グリン俱楽部」を発足後、毎年、地域との交流活動の実施等を行っています。環境活動とは継続することに意味があり、効果を出す基本であると考えます。

○「緑の募金付き名入れエコカレンダー」

企画当初より、8年間を通して、コンスタントに実績を積み重ねております。

8年間（2008-2015年）の実績。 229件 82,649部 2,126,759円（募金額）

今年度は、仕様を大幅にリニューアルしました。実績数値としては、件数（顧客数）と募金額を伸ばすことができました。また、今回のリニューアルにより、好印象を得ています。次年度は、今まで以上に、より多くのみなさんに「エコカレンダー」をご案内させていただきます。

販売年度	件数	部数	募金額
2008年	31件	8,620部	274,050円
2009年	36件	21,286部	472,848円
2010年	29件	9,390部	223,188円
2011年	21件	8,899部	221,407円
2012年	22件	8,931部	228,054円
2013年	25件	8,275部	231,439円
2014年	23件	8,715部	234,005円
2015年	42件	8,533部	241,768円
合計	229件	82,649部	2,126,759円

(他事業所への普及の可能性)

○「緑の募金付き名入れエコカレンダー」

名入れカレンダーとして販売しています。企業・団体名をカレンダーの台紙の名入れスペースに入れていただくことにより、各社の社名入りのエコカレンダーとなります。もちろん「緑の募金」として取り扱わせていただきます。企業から企業へ、企業から人へ、業種業界の壁なく、環境に関する啓蒙活動のツールとしての広がりが想定できます。デスクの上に年間を通して設置できる『エコオフィス・カレンダー』として、多くの事業所への普及を望んでいます。今年度は、42事業所（団体・企業）の皆さんに企画内容を賛同いただくことになりました。

(従業員への周知・啓発の方法)

自社の環境・社会貢献活動のひとつとして、企画内容及び販売実績を記録・発信しています。

- ・スマート・コンシャス（人と地球にやさしい情報誌）への掲載
- ・環境・社会貢献活動報告書（E-report）への掲載
- ・環境ソリューションとしてホームページへの掲載
- ・[EINS NEWS]としてホームページに活動をタイムリーに紹介

また、「卓上エコカレンダー」を「みんなで始めよう森づくり活動（鏡の森グリン俱楽部）」の活動ツールとして制作し、「竜王町緑の少年団」や各種団体や指導者の皆さんに提供しています。

日本一の湖・琵琶湖を有する滋賀県は、環境意識が高い土地柄です。また木材からなる紙を使用する印刷業として、水や森林の環境保全は欠かせない活動です。「緑化の推進」のみならず、環境活動への取り組みは、当社の環境方針としてマネジメント方針の中に組み込まれています。

【その他の環境に配慮した事業活動への取組】

○適正冷暖房温度の設定・夏冬エコスタイル

- ・「2015年 ウォームビズポスター + サーモラベル」

「ウォームビズ」「クールビズ」として、その時期に応じて適切な室温管理と個々による体温調整を推進。今年度の当社のポスターは、示温材で温度が表記される「サーモラベル」を貼付けました。

設定温度を「20度」としていても、実際の温度を認識できていない場合が少なくありません。「サーモラベル」による室温の変化（色の変化）により、現状の温度を「18度」「20度」・・・という具合に把握でき、温度調節や節電・省エネへの取組みに対する基準となる室内温度を掲示ポスターと同時に見ることができます。

設定期間を「20度」としていても、実際の温度を認識できていない場合が少なくありません。「サーモラベル」による室温の変化（色の変化）により、現状の温度を「18度」「20度」・・・という具合に把握でき、温度調節や節電・省エネへの取組みに対する基準となる室内温度を掲示ポスターと同時に見ることができます。

(取組の写真・図等)

環境への取り組み



みんなで始めよう森づくり活動

▶「緑の少年団」との交流活動



里山散策・指導者より樹木の説明を受ける様子

木の葉や小枝を収集してクラフトワークの材料とします。
次回開催時に樹木プレートを設置しました。
(2014年9月28日・10月26日開催)



無想庵(当社施設)にて紙漉きの実施

牛乳パックのリサイクルや印刷用紙の端紙を再パルプ化して
オリジナル品を作成。次回開催時に全作品を展示しました。
(2015年10月4日・12月5日開催)

▶里山環境保全活動



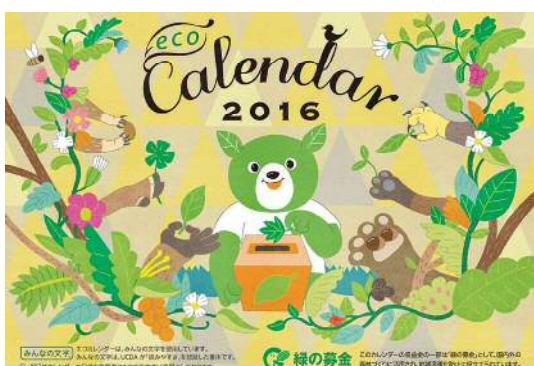
鏡山の麓での環境保全活動(全員集合)

毎年7月～12月の間で下草刈りや枯れ松の伐採を実施。
松くい虫の影響により、松枯れの被害が深刻な問題です。



枯れ松の伐採後、軽トラックでの移動

緑の募金付き名入れエコカレンダー



1月/「エコくまグリン」からの環境メッセージ
(裏面も利用できるリバーシブル仕様)